

2012年7月5日

VOL. 68

とっとり・グローバルウォッチ

とっとり国際ビジネスセンター情報誌

シンガポール「Oishii JAPAN」のご案内 鳥取県ブースとしてシンガポールに初出展します！

鳥取県産業振興機構では、シンガポールにて開催される日本食品・飲料、日本食のための専門見本市「Oishii JAPAN」に、初めて鳥取県ブースを出展いたします。アセアンの玄関口であるシンガポールにおいて、各国から来場するバイヤーに向けてダイレクトに日本食品・飲料、日本食を発信できるこの展示会は、アセアン地域での販路開拓をお考えの皆様にとって製品のPRやバイヤーとの出会いを作る絶好の機会ですので、是非出展をご検討ください。

■Oishii JAPAN概要

会 期：2012年11月1日（木）～3日（土）3日間
 会 場：サンズ・エキスポ&コンベンション センター
 主 催：TSO MP International Pte Ltd
 後 援：農林水産省、ジェトロ、観光庁 ほか
 特別協賛：経済産業省
 出品品目：農林水産物、加工食品・飲料 ほか
 出展者数：200社（目標）
 来場者数：5,000人（目標）



■主な当財団出展概要

- 参加対象企業は、鳥取県内に本社、支店、工場など関連施設がある食品関連企業・団体等であることとします。
- 出品物は、鳥取県産品或いは鳥取県内の加工工場等で加工された製品とします。また、制度上、日本からシンガポールへ輸出・販売可能なものに限りです。
- 鳥取県ブースとして、3小間（3～6社程度）出展する予定です。

■費用負担区分

- 当財団が助成する経費
小間使用料、基礎備品料（受付台、商談デスク、椅子、社名版等）
- 出展企業負担分
輸出梱包及び展示会会場までの通関・輸送経費、関税等公租公課、関係する保険料、追加備品料、展示会終了後の出品物の処理（還送・転送等）に係る経費、社員の派遣に要する経費（渡航費、宿泊料、現地交通費等）、通訳雇用料

■申込期限

2012年7月20日（金）17時必着

とっとり国際ビジネスセンターホームページ (<http://www.tottori-kaigai.com/>) から参加申込書、出品物データシートをダウンロードし必要事項をご記入の上、出品物と会社概要が分かるパンフレット2部ずつとともに当センターまでお申し込みください。

■申込・問合せ先

公益財団法人鳥取県産業振興機構 とっとり国際ビジネスセンター（担当：早川）
 TEL:0859-30-3161 FAX:0859-30-3162 E-mail: kaigai@toriton.or.jp
 或いは、同センター東部窓口（担当：中江）
 TEL:0857-52-6757 FAX:0857-52-6782 E-mail: kaigai@toriton.or.jp

目次

シンガポール「Oishii JAPAN」のご案内	P 1
中国吉林省進出 日系企業レポート	P 2
アンニョンハセヨ KOREAレポート 2	P 3
最新の上海 ～現地レポート～ 52	P 4 P 5
現地発！ 台湾月刊レポート 61	P 6 P 7
お知らせ	P 8

世界の祝日 8月

■中国	1日	中国人民解放軍 建軍記念日
■韓国	15日	解放記念日
■タイ	2日	三宝節
■シンガポール	9日	独立記念日
	19日	ハリラヤブアサ

中国吉林省進出日系企業レポート

「神楽拉麵屋」金代表へインタビュー【前編】

外国人に日本のイメージについて質問すると、以前は「家電、自動車」というのが定番であったが、最近では多くの外国人が「ラーメン、アニメ」と答えるという。確かに日本国内にはラーメン屋の数も、その情報も溢れている。ラーメンは日本の国民食となり、それは日本食として海外にも伝わっている。同じようにラーメンの故郷、中国へも日本料理の一つとして、逆輸入されているのである。私の住む長春市内にも日式（漢字文化圏において日本風を表す際用いる語）を掲げるラーメン屋が10件近くある。経営者の多くは日本からの進出企業であるが、中国人自らのものもあつたりと様々である。

今回は鳥根県に本社を持ち、山陰各地に店舗を構える「拉麵屋神楽」の中国店舗となる「神楽拉麵屋」の金代表から話を伺った。



神楽拉麵屋 金代表

■神楽拉麵屋について

2011年、石田商事（米子市米原8丁目）出資の元、中国吉林省延吉市に進出。山陰地方各地に店舗を構える神楽ラーメンの系列店として、現在は中国店舗として延吉市内に1店舗を構える。中国における従業員は金代表を含む9名。

■まずはお店の様子を教えてください

今年（2012年）1月18日に神楽ラーメンの中国系列店としてオープンしました。味はもちろん、サービス、内装も日本と同じものが提供できるようこだわりました。日本式を売りにしていますので、お客さんが入ってきたときには日本語で「いらっしゃいませ」と、お帰りになられる際には「ありがとうございました」と挨拶をしています。オープンから4ヶ月弱ですが、毎月お客さんの入りは増えており、手ごたえを感じています。

■延吉市は中国では中規模の都市ですが、なぜ延吉市への出店だったのですか？

率直に言うと私の故郷だったからですかね。中国への進出の話になった際、「上海や北京といった大都市ではもう出遅れている、地方都市へ」という話になりました。であれば、私の故郷であり人脈もある延吉へという話になりました。延吉市は現在人口60万人ほどですが、3年前から比べると20万人近く増加しており、その発展の勢いは凄まじいものがあります。まさにこれからどんどん伸びる土地とも言えます。この辺りが出店の理由ですかね。

■このあたりの人々の味の好みはどうでしょう。日本と同じものを提供できるようにというお話でしたが、同じ味で受けるものなのでしょうか？

確かに味の好みは完全に同じというわけではありません。例えば、中国人は硬い麺が嫌いです。オープン当初、日本と同じような硬さの麺を出していたところ、「生茹でじゃないか、やり直せ」というクレームが何件もありました。今は中国人好みの柔らかめの麺を出していますね。今はまだオープンして間もないので、まずは日本の味を再現するという段階です。そこから、麺を柔らかくしたように、少しずつ中国で受ける味に変化させていくというところですかね。



神楽拉麵屋の外観

後編は次号でご紹介します。
お楽しみに！

《吉林省について（参考：鳥取県HP）》

吉林省は中国東北部に位置し、東はロシア、東南は図們江、鴨綠江を境に北朝鮮に接し、南西・北はそれぞれ遼寧省、内蒙古、黒龍江省と接している。土地は世界三大黒土と呼ばれるほど肥沃で中国有数の穀倉地帯となっており、石炭・天然ガス・石油などの鉱物資源にも恵まれている。

また、中国の重工業生産基地であり、特に自動車工業と化学工業は中国で重要な位置を占めている。近年は中国、ロシア、朝鮮民主主義人民共和国の国境を流れる図們江流域の開発を進め、中国東北地区の海の玄関となることを目指している。

アンニョンハセヨ KOREAレポート 2

韓国の健康機能食品市場について

健康に対する関心の増加及び健康管理の手段として認識されながら、韓国の健康機能食品は年平均27%以上成長してきたが、今後、持続的な成長のためには消費者のニーズを把握し、消費者の信頼を確保するための努力が必要である。

■健康管理の手段としての健康機能食品

2010年に実施されたあるアンケートによると、韓国の成人男女のうち半分以上は健康機能食品を服用していると調査された。即ち、所得水準が高くなり、生活の余裕ができ、健康が人生で最も重要な価値とみなされて、健康に対する関心及び欲求は段々大きくなっており、個人が実行しやすい健康管理方法として、健康機能食品が重要な役割を果たしていることが把握された。

■健康機能食品浮上の背景

健康機能食品とは、体に良い機能を持っている原料や成分を錠剤やカプセル、粉末、顆粒、液状、丸薬などの形態で製造加工した食品をいう。韓国では食品医薬品安全庁が機能性と安全性を認証した製品のみ「健康機能食品」という文句とマーク（右参照）を使うことができる。



過去にはビタミン剤程度のみが健康機能食品と考えられたが、最近は多様な成分と機能を備えている新しい製品が次々登場している。このような背景には高齢化、慢性疾患の増加など、需要側面の変化以外にも、効能に対する科学的根拠提示と新技術開発、関連法規の具備などが大きい役割を果たしたと考えられる。

■2011年健康機能食品の生産実績の分析結果

食品医薬品安全庁の分析結果によると、2011年健康機能食品の生産額は1兆3682億ウォンで、2010年に比べ28.2%増加し、これは健康機能食品の年平均成長率（27.4%）と類似な水準であると表れた。

一方、健康機能食品の品目別市場現況は次の通りである。まず、紅蔘製品生産額が全体機能食品市場の52.6%（7191億ウォン）を占め、1位を達成し、健康

機能食品制度が施行された2004年以後から現在まで1位を維持している。

紅蔘に続いてビタミン及び無機質製品（1561億ウォン）、個別認定型製品（1434億ウォン）、アロエ製品（691億ウォン）、オメガ-3脂肪酸の含有製品（509億ウォン）の順番で表れた。ビタミン及び無機質製品製品は忙しい日常でサラリーマンの食餌補充用消費が増加していると分析され、消費者の要求による新しい機能性原料を使用した個別認定型（告示された品目以外に安全性・機能性を個別に認められた機能性原料で製造した健康機能食品として、ミルクシスル、Oriental Raisin Tre の抽出物など）健康機能食品も持続的に成長している。

《健康機能食品の生産現況》

区分	総生産額 (億ウォン)	総生産量 (トン)	内需用		輸出用	
			生産額 (億ウォン)	生産量 (トン)	生産額 (億ウォン)	生産量 (トン)
2004	2,506	4,764	2,263	4,250	242	514
2007	7,235	10,578	6,888	10,239	346	339
2008	8,031	13,687	7,516	12,990	514	697
2009	9,598	19,885	9,184	19,293	415	592
2010	10,671	25,361	10,211	24,994	460	367
2011	13,682	40,258	13,126	39,611	556 ¹⁾	647
比率(%) ('11/'10)	28.2	58.7	28.5	58.5	21.0	76.3

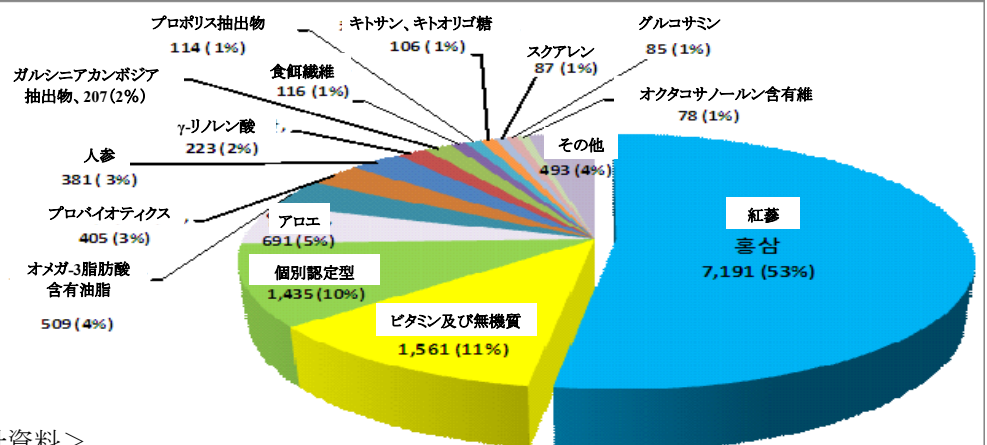
1) 1 \$ = 1,108ウォン (2011年)

■今後の課題

韓国の場合、「健康機能食品に関する法律」を通じて健康機能食品の製造及び許可、販売などに対して規制を設けている。これを通じて既存に「万能薬」のように販売された慣行はある程度消えたと評価されているが、未だに健康機能食品の製造/販売企業の水準はさまざまであり、価格や効能に対する不信により健康機能食品の服用をためらっている消費者が多いのも否認できない事実である。

したがって、今後持続的な成長のためには消費者との持続的な交流を通じてニーズを正確に把握し、消費者の信頼を確保するための努力が必要であると判断される。

健康機能食品の品目別市場現況 (2011年/億ウォン)



< 出典：食品医薬品安定庁の統計資料 >

最新上海 ～現地レポート～ 52

西北料理とイスラム文化

ここ上海では、多くの中国各地の料理を楽しむことができ、中国の広大さ、民族や文化の多様性を実感する。

「中華料理」と言えば、どんな料理を思い浮かべるだろうか。餃子、チャーハン、麻婆豆腐、北京ダックなど日本でもたくさんの中国料理が親しまれているが、中国に来てみると、日本の「中華料理」の種類がそれほど多くないと気づく。それは、中国の料理の中には、日本人の味覚に合わない味付けや食材も多く、そもそも中国よりも日本のほうが利用食材の種類が少ないことも理由として挙げられる。

今回は、日本ではあまり目にすることがない西北地方の料理をご紹介します。西北地方とは一般的に、陝西省、甘肅省、青海省、寧夏回族自治区、新疆ウイグル自治区などを指す。中国の少数民族の中で最も多数を占める回族（中国のイスラム民族）がこの地方に多く居住していることから、イスラム文化の影響が強い。



■西北料理の特徴と代表料理

①イスラム文化の反映「ハラール」

世界一の豚肉消費国であり、全世界の半分の豚肉を食しているのは中国であるが、西北地方では回民族人口が多いため、彼らは宗教上の観点から豚肉を食さない。このように、イスラム法上では食に対しても禁止事項が定められており、食べることが許された食品のことを「ハラール」と呼ぶ。豚肉以外にも、ゼラチンやラードなどの豚肉を原料とする食品やアルコール類、化学調味料など禁じられているほか、食肉の屠蓄方法についても規定されている。



左端：「羊肉串」・・・羊肉の串焼き

中央：「大盤雞（ダーパンジー）」・・・鶏肉・ジャガイモ・トマトの煮込み

右端：「牛肉拉麵」・・・牛肉スープの手延べ麺

《次頁へ続く》

②粉モノ文化

西北地方の主食は主に小麦粉を原料とした麺やパンなどである。麺の種類も多様で、「ラーメン（手延べ麺）」、「刀削麺（包丁で削った面）」のほか、米粉や蕎麦粉・コーリャンなどの雑穀で作った麺もあり、麺文化が非常に豊かだ。



左端：「肉挾膜（ロウジャーモウ）」・・・ローストビーフを挟んだ釜焼パン
中央：「涼皮（リヤンピー）」・・・米粉麺の酸っぱい辛い冷麺
右端：「苳（ヨウ）麵」・・・オートミールから作られた蒸し麺

③素材重視、新鮮な原材料

西部内陸部という砂漠というイメージがあるが、新疆ウイグル自治区について言えば、面積166万平方キロメートルのうち、その4割以上が農・林・牧畜業に利用可能で、中国でも有数の果物及び胡桃の産地であり、中国五大牧畜区の一つになっている。



左端：「哈密瓜（ハーミーグアー）」・・・マスクメロン
中央：「紅棗（ホンザオ）」・・・大粒干しナツメ
右端：「石榴（シーリウ）」・・・ざくろ

■イスラム圏に食品輸出する際の諸注意

中国では義務付けられていないが、イスラム圏のハラール食品市場に食品を輸出する場合は、「ハラール認定」マークの表示を要求される。日本国内では「宗教法人日本ムスリム協会」（JMA）※1と「宗教法人イスラミックセンター・ジャパン」（ICJ）※2がこの認定を発行している。また、「NPO法人ハラール認定協会」※3を通じた認証申請も可能。認定の発行には、該当製品のほか工場やサービスに至るまでそのハラール性がチェックされ、認定取得後もそのメンテナンスチェックのため、有効期限が設けられている。特に注意すべきは、イスラム圏といっても、トルコやアラブ首長国連邦などの中近東諸国、マレーシアやインドネシアなどの東南アジア諸国など地域は幅広く、日本のハラール認定証明が有効であるとは限らないため、予め貿易通関業者に確認が必要だ。ちなみに、中国には、中近東あるいは東南アジアのイスラム圏向けハラール認定食品を製造する工場が数多くある。

※1：<http://muslimkyoukai.jp/>

※2：<http://islamcenter.or.jp/jpn/index.html>

※3：<http://www.jhalal.com/>

上述の通り西北地方は、豊かな土地に恵まれ、新鮮な素材を利用した比較的シンプルな料理が多い。日本人にとって馴染みの深い、広東料理や上海などの江南料理とは全く異なったジャンルの料理であり、中国の食文化は一言では言い表せないことがお分かり頂けたらう。また、西北地方は、地理的に見ても中華文化とイスラム文化の交差点であり、かつてシルクロードの起点とされた長安（現在の西安）もこの地方に属しているため、食文化にも多様さや豊かさがあるのだろう。一方で、イスラム文化を背景とした、厳しい禁止事項もあり、非イスラム圏からイスラム圏への輸出については、事前の確認が非常に重要である。

現地発！台湾月刊レポート 61

FOOD TAIPEI 2012 について

本年度の台北食品展覧会、通称「FOOD TAIPEI 2012」も無事閉幕した。主催の外貿協会（Taitra）によると、1億US\$の取引が成立したとのこと。食品関係の「台北国際食品展」、「台北国際食品加工設備暨製薬機械展」、「台北国際包装工業展」及び「台湾国際飯店暨餐飲設備用品展」が同時に開催された。出展は1,530社、ブース数は3,537ブース、外国人バイヤーは5,922人。台湾国内バイヤー・参観者は61,042人にも達した。昨年比の成長率は33%増加。外国人バイヤーの上位5カ国の内訳は、中国大陸、日本、マレーシア、香港、フィリピンであった。

■鳥取県企業3社が出展

鳥取県企業は第一メイン会場である南港に3社出展。

EMUCO（エムコ、境港市）の遠藤社長のブースは、主役の黒にんにく以外にも台湾が産地でもあるマンゴ味のコラーゲン等を出品されていた。コラーゲン類は、台湾人の味覚に合うか市場調査を行なっているとのこと。マンゴ味が台湾人に受けが良いとのこと、次の商品展開を頭の中に描いているようである。経済危機のギリシャに「モンドセレクション」受賞のため行ってきた直後とのこと、楽しい話を聞かせていただいた。国際的な視野に立たれた商品開発を感じた。

左が遠藤社長



丸京製菓さん（米子市）は、台湾の屏東にて女性駐在員を一人置き、生産工場を開始されたとのこと。当地にて頑張りたいという、すごい気迫を感じた。屏東は台湾南部に位置する。パッションのある台湾人が多い地域なので、活躍を期待し応援したいと思う。ブースも常に人垣ができ、台湾でのどら焼き人気が続いていることを感じさせた。素晴らしいバイタリティ。

丸京製菓の皆様
右端が鷲見社長



続いて、越河さん（米子市）。美味しそうな匂いが常に漂っているブース。越河社長にお話をうかがったところ、人の入りは、まあまあ。しかし、台北に送った冷凍食品が一部溶けてしまい使い物にならなくなった、と残念そうにおっしゃっていた。どこで溶けたのかは不明。たぶん、倉庫ではないかとのこと。ちょっと気落ちされていたが、現場に立った姿は、やはりプロ。しっかりと商談をされていた。市場開拓をがんばって欲しいと思います。



右が越河社長

今回、私はもう一つのメイン会場である世界貿易センター、通称「世貿」にて交流協会主催ブースを支援した。こちらのブースでは大震災で被災した東北6県を支援した。

今回、一番残念だったのは、福島県ブースの前で、ある台湾人から「福島放射能の危険なものを台湾人に食わせるのか」と大声で罵られたこと。安心を看板に掲げていた日本食品が、台湾にて危険な食品と認識されている実態を知らずも垣間見た瞬間であった。海外では、こういう状況にあることを頭の片隅に置いていただきたい。幸いにも心ある多くの台湾人達の力を借り撃退したのだが、後味が悪い。



南港会場の前景

■Facebookの意外な活用方法

さて、本会場では、面白い試みを行った。Facebookにて、一般消費者を会議室に集客し、出品した食品・飲料を直接評価してもらったのだ。試食会参加者は30数名、子供からお年寄りまで。こういう試みは、私にとっても初めてだったが、生の声が直接聞けて、とても興味深い結果となった。日本酒については、殆どの人が日本人の一般的な呑み方を知らないこと。熱燗とは80度前後と思っていること。また私達日本人が感じない塩分を、参加したほとんどの台湾人がしょっぱいと感じること。

《次頁へ続く》

減塩味噌汁が、程よい塩味であること等々、数多くの知見が得られた。日本業者も今後の台湾市場商品の食感・味加減について大変参考になったようである。プロの業者の意見も大事だが、案外一般的な台湾人に聞くことは、原点にたった商品開発ができるのではないかと思った。本試食会での一番人気は、青森の100%りんごジュース。香りが素晴らしいと絶賛されていた。人気のないのは、台湾にも類似商品があるのに、値段が高いもの。コストパフォーマンスを見ている合理的な台湾消費者。健康的、ダイエットの付加価値のあるもの、複雑ではなく純粋なもの。こういうモノが案外求められているような感じがした。

なお、本題目と関係ないが、大きなニュースが飛び込んできた。台湾の最高検特捜部は2日、馬総統の腹心である林益世前行政院（内閣）秘書長（43）を収賄容疑で逮捕。クリーンなイメージで売っていた馬政権にとってとても痛い状況になった。政局が動くかもしれない。



左端：メインである南港会場の様子。JETROが主催で日本館を開いていた。
中央：日本館通り。日本食期待が大きい様子。
右端：東北6県ブースが頑張った。



左端：ハラルブースは広い。新市場と見ている。
中央：韓国は、K-POPからK-Foodの売込展開。K-POPダンスまで披露し集客、人だかり。
右端：日本食試食会にて試食試飲する人々。盛況。

お知らせ

貿易実務セミナー（基礎編）のご案内

鳥取県雇用創造協議会とジェットロ鳥取は、貿易業務に関心のある企業・個人を対象として、貿易実務セミナーを開催します。初めて貿易業務に携わる方や既に貿易業務をされている方が、貿易実務の基本体系を理解するのに最適ですので、是非本セミナーにご参加下さい。

日時：2012年7月17日（火）、
25日（水）

9時30分～16時30分

場所：ホテルセントパレス倉吉

講師：中矢一虎法務事務所
代表 中矢 一虎 氏

参加費：無料

定員：30名（先着順）

申込締切：2012年7月13日（金）

問合せ：

ジェットロ鳥取（担当：細田）

TEL：0857-52-4335

FAX：0857-52-4336

Nippon HEART GIFT（東京）のご案内

中小機構は、国内で開催される海外バイヤー等の来場が見込まれる国際的な展示会に出展エリアを確保して、海外市場開拓に意欲的な中小企業の方の出展を支援いたします。現在、「Nippon HEART GIFT」への出展者を募集しています。

名称：第74回東京インターナショナルギフト・ショー秋2012

『Nippon HEART GIFT』ブース

主催：中小企業基盤整備機構

会期：2012年9月5日（水）

～7日（金）

会場：東京ビッグサイト東5ホール

締切：2012年7月12日（木）

問合せ：

東京インターナショナルギフト・ショー秋2012

中小機構Nippon HEART GIFT事務局

(株)インターネットテレビジョン内

TEL：03-3780-0906

FAX：03-5728-2862

JAPPE 2012 at 広州モーターショー ジャパン・パビリオンのご案内

ジェットロは昨年引き続き広州モーターショーの自動車部品エリアに「JAPPE2012」ジャパン・パビリオンを設置、高品質な日系自動車部品をPRすることで出展者のビジネス・チャンス創出を支援します。完成車メーカー・大手部品メーカーの調達担当者との関係を持つ良い機会ですので出展をご検討ください。

開催地：中国・広州

会期：2012年11月22日（木）

～24日（土）

会場：広州交易会琶洲会館

募集小間数：240小間（予定）

対象分野：自動車部品や材料、生産設備、自動車関連の情報・通信・流通等のサービス

申込締切：2012年8月17日（金）

問合せ：

ジェットロ海外見本市課

TEL：03-3582-5183

FAX：03-3505-0450

編集後記

先日、米子市の下町～寺町辺りへ街歩きに出かけました。その日は朝から雨模様でしたが、雨の止み間をぬって初めてのエリアをワクワクしながら散策しました。途中、9つも並ぶお寺の前を通り、たくさんのお地藏様と出会い、川沿いの景観に癒され、昔の風情を残す米子のまちを見ることができました。

ほかに米子でおススメの街歩きスポットがありましたら、ぜひ教えてください。【na】



本誌「とっとり・グローバルウォッチ」は、皆様から内容のご提案や掲載されている情報へのご意見・ご感想をお待ちしておりますのでお気軽にお寄せください。

お問い合わせ：公益財団法人鳥取県産業振興機構 とっとり国際ビジネスセンター

《本 部》境港市竹内団地255-3

TEL：0859-30-3161 FAX：0859-30-3162 E-mail：kaigai@toriton.or.jp

《東部窓口》鳥取市若葉台南7-5-1

TEL：0857-52-6757 FAX：0857-52-6782 E-mail：kaigai@toriton.or.jp